



学校だより特別号

令和7年10月1日

札幌市立福住小学校

『令和7年度 全国学力・学習状況調査』 本校6年生結果概要等のお知らせ

令和7年4月17日に、全国の6年生を対象として『令和7年度 全国学力・学習状況調査』が実施されました。本調査は、全国の児童の学力や学習状況を把握・分析し、学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的としています。

札幌市では、「学ぶ力～自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力」「豊かな心～他者を思いやる心、生命を尊重する心、自然や美しいものに感動する心」「健やかな体～生涯を通じて運動を親しむための基礎を培うとともに積極的に心身の健康の保持増進を図る資質・能力」を中心とした教育の推進を目指しています。本校でも、これらの視点を大切にされた教育活動を進めており、今回の学力・学習状況調査の結果についても、全国の結果と比較・分析し、本校の教育活動の充実に生かしていきます。

また、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面であることを御理解いただきたく存じます。

【国語】本校6年生の調査の結果概要及び学びの改善の方向

本校6年生の調査結果の概要

- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」
 - 全国平均よりも上回っています。
- 「情報の扱い方に関する事項」
 - 全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っています。
- 「我が国の言語文化に関する事項」
 - 全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っています。
- 「話すこと・聞くこと」
 - 全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っています。
- 「書くこと」
 - 全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っています。
- 「読むこと」
 - 全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っています。

調査における成果と課題

- ◎学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができています。
- ◎情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができています。
- 「話すこと・聞くこと」の領域については、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討する力に課題が見られました。
- 「書くこと」の領域では、目的や意図に応じて、事実と感想、意見と区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力が概ね定着しています。
- 「読むこと」の領域については、目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして、必要な情報を見付ける力が概ね定着しています。

学びの改善の方向

- ☆実際の話し合いの場面を具体的に想定し、目的や意図に応じて、話す内容や質問を分類・関係付けながら、話し合いの進め方を考える学習活動の充実を図ります。
- ☆書く目的や意図を明確にし、条件に合わせて詳しく書いたり、簡単に書いたりするとともに、図表を用いるなど、必要な場合を判断しながら書き表し方を工夫する学習活動の充実を図ります。
- ☆説明的な文章を読む目的を明確にし、文章や図表など複数の資料から必要な情報を取捨選択・整理・再構成しながら、それぞれの資料を関連付けて考える学習活動の充実を図ります。

【算数】本校6年生の調査の結果概要及び学びの改善の方向

本校6年生の調査結果の概要

- 「数と計算」
 - 全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っています。
- 「図形」
 - 全国平均とほぼ同程度であるが、上回っています。
- 【測定】
 - 全国平均よりも上回っています。
- 「変化と関係」
 - ◎全国平均よりも上回っています。
- 「データの活用」
 - 全国平均よりも上回っています。

調査における成果と課題

- ◎全ての領域で全国平均を概ね上回ることができていることから学力の定着が図られていることが分かります。日常の学習指導、及び、家庭での取組の成果が表れています。
- 「数と計算」の領域では、示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表して計算すること、小数や分数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位数を捉えることについて、課題が見られました。
- 平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することについて、課題が見られました。

学びの改善の方向

- ☆小数や分数の加法及び減法の計算の仕方を分数の意味や大きさに着目して考える学習活動の充実を図ります。
- また、日常の事象について、ある数量を調べようとするときに、それと関係のある数量を見だし、それらの数量の関係を把握して問題を解決する学習活動の充実を図ります。
- ☆辺の長さや角の大きさ、辺の位置関係に着目して、図形の構成の仕方について考察する活動の充実を図ります。

【理科】本校6年生の調査の結果概要及び学びの改善の方向

本校6年生の調査結果の概要

- 「エネルギー」を柱とする領域
 - 全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っています。
- 「粒子」を柱とする領域
 - 全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っています。
- 「生命」を柱とする領域
 - ◎全国平均よりも上回っています。
- 「地球」を柱とする領域
 - 全国平均よりも上回っています。

調査における成果と課題

- 身の回りの電気を通す物と磁石に引き付けられる物との差異点や共通点の理解について、課題が見られました。
- 水の温まり方について、問題に対するまとめを導き出す際、実験の方法が適切であったかを検討し、表現する力が概ね定着しています。
- レタスやヘチマの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現する力が定着しています。
- 赤玉土と粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現する力が定着しています。

学びの改善の方向

- ☆物質の性質に関する理解を深めるために、学習した知識を既習の内容や他の学習や生活と関連付け、習得した知識を整理する学習活動の充実を図ります。

【児童質問紙調査】本校6年生の結果の概要

- ◎「学校に行くのは楽しいですか」という質問に対し、「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答している児童の割合は91.4%（全国平均86.5%）となっています。
- ◎「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」という質問に対し、「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答している児童の割合は82.7%（全国平均78.1%）となっています。
- ◎「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」という質問に対し、「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答している児童の割合は88.5%（全国平均81.3%）となっています。
- 「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に対し、「当てはまる」と回答している児童の割合は38.5%（全国平均47.3%）となっており、「当てはまらない」と回答している児童の割合は6.7%（全国平均3.9%）となっています。
- 「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分がすべきことを決めて取り組んでいますか」という質問に対し、「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答している児童の割合は75.9%（全国平均80.8%）となっています。
- 「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか？（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間を含む）」という質問に対し、「1時間以上、2時間より少ない」と回答している児童の割合は18.3%（全国平均29.1%）となっており、「全くしない」と回答している児童の割合は9.6%（全国平均5.7%）となっています。

本調査の結果から、国語と算数の学力面については、全般的に学習内容の定着が図られていることが明らかになりました。

本調査結果における成果や課題、札幌市で目指している「生涯にわたって学び続けるための『学ぶ力』の育成」を踏まえ、本校では、「一人一人が自ら考え、つながりの中で学びを深める授業」を更に充実させます。また、「『学ぶ力』の育成の習慣づくり・環境づくり」を推し進め、「本物の経験」となり得る場を創出していきます。

本市学校教育の基盤である「人間尊重の教育」の観点では、自分を肯定的に捉える「自己肯定感」、自分が他者の役に立っていると感じるなどの「自己有用感」に課題が見られました。本課題を解決できるように、子どもが自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重する相互承認の感度を高められるよう、互いのよさや可能性を發揮できる「学級活動づくり」、互いのよさや可能性を認め合える「人間関係づくり」、安心して過ごすことができる学校の「環境づくり」を進めてまいります。

なお、3学期の学年末懇談会の時期に、今年度の具体的な取組について、御説明いたします。今後とも、皆様の温かい御支援・御協力をよろしくお願い申し上げます。